

支 部 通 信

日本山岳会山梨支部 第3期第16号

令和6年6月30日

令和6年度定時総会を開催

令和6年4月20日、山梨県立図書館において定時総会を開催した。通常会員現在数64名のところ24名出席、委任状33通、合計57名により定足数を満たし（準会員10名出席）、北原支部長議長のもと、第1号議案令和5年度事業報告、第2号議案同収支決算報告が一括上程され、監事監査報告ののち、原案どおり満場一致で決議された。続いて第3号議案の役員改選案は、立候補者等無く事務局案が採択され14名の理事、2名の監事が選任された。第4号議案の令和6年度事業計画案、第5号議案の同収支予算案も一括上程され、原案どおり満場一致で決議され、議事は終了した。

その後、報告事項に入り、第9回やまなし登山基礎講座、第4回家族登山、登山届のフローチャート等の説明があった。総会終了後、同所で臨時理事会が開催され新正副支部長、理事長が選任された。また恒例の懇親会を甲府駅ビル「麺ズ富士山」で開催し、30名が参加し交流を深めた。（古屋寿隆）

令和6・7年度役員

定時総会後の臨時理事会において、令和6・7年度の役員が次の通り選任された。古屋新支部長の下、支部事業の継続と発展のため尽力する所存である。各事業の運営に、会員各位のご協力をお願いしたい。（矢崎茂男）

| | |
|---------------------|---|
| 支部長兼事務局長 | 古屋寿隆（新任） |
| 副支部長 | 磯野澄也（再任） |
| 理 事 長 | 小宮山千彰（新任） |
| 理 事（会計担当） | 小宮山千彰（再任）・窪田光一（再任） |
| 理 事（総務担当） | 窪田光一（新任）・河野芳尚（新任） |
| 理事・顧問（120周年記念事業委員長） | 北原孝浩（新任） |
| 理 事 | 遠山若枝（再任）・中村光吉（再任）・渡辺峯雄（再任）・矢崎茂男（再任） 相川 修（新任）・平松清子（新任）・東条真由里（新任）・石澤貴子（新任） |
| 監 事 | 小宮山 稔（再任）・大澤純二（新任） |
| 顧 問 | 内藤順造・深沢健三・北原孝浩 |
| 【山行委員会】 | 委員長：小宮山千彰、事務局長：渡辺峯雄、事務局次長：相川 修 |
| 【広報委員会】 | 委員長：矢崎茂男、事務局：河野芳尚・窪田光一 |
| 【自然保護委員会】 | 委員長：中村光吉、副委員長：磯野澄也・遠山若枝・平松清子・臼田昌美 |
| 【120周年記念事業委員会】 | 委員長：北原孝浩、副委員長：小宮山千彰・古屋寿隆 |

支部長退任あいさつ

4年前の4月、支部総会で皆さまから推挙いただき、5月15日付で会長から山梨支部長を任命されて2期4年が経過しました。

忌まわしい新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、感染防止のため年度計画その他を見直し、約半年間支部実施予定の山行は中止せざるを得なくなりました。このコロナ感染症の流行ピークは何度もあり、そのピークの一つが「第7回やまなし登山基礎講座」の時期と重なってしまいました。2015年から毎年実施のこの講座は、共催の山梨学院の一方的な撤退という事態になって支部独自に実施することになりました。会場探し、チラシ作成や受講生募集などすべてを計画し準備したものの開講直前にコロナ流行のピークとなって、開講中止するという苦渋の決定をしました。昨年5月に「第5類感染症」に移行されるまで、支部からクラスターを発生させない、発生を絶対防がねばという強い執念で、総会や会議、講座の



会場確保に苦慮し、事業実施にあたってはその方法手順などに工夫をしました。恒例の総会後の懇親会や新年会なども開こうにも開けぬことが続きました。山行を含めて支部の諸事業実施にはイレギュラーな面が多々ありましたが、皆さまのご協力をいただけたからこそ概ね無事無難に実施遂行できましたことを改めて感謝いたします。くしくも支部長在任期間の4分の3はコロナ感染症が猛威を振るった時期でもあり、このことを決して忘れることは無いと思います。

支部の活力維持、活性化を図る大きな要素の一つとして新しい会員をコンスタントに増やして行くことについては縷々発言してきました。そして準会員制度を取り入れて支部員を増やす努力を皆さんとともに取り組み、一定の成果をあげることができました。また昨年9月22日の全国支部連絡会議の場において、『新入会員獲得最大のネックは入会金が高すぎる』と意を決し訴え、その減額を強く求めました。その結果は来る6月22日に開催の令和6年度通常総会の第3号議案として付議されて減額が決まる喜ばしい結果になる見通しになりました。

支部長退任後も理事・顧問として、とくに日本山岳会創立120周年記念事業について図らずもかかわることにもなりました。支部発展のため引き続き皆さんとともに歩んでまいりますので、よろしくお願いたします。（2024.6.16 記す 北原孝浩）

支部長就任あいさつ

本年4月20日開催の定時総会後の理事会において支部長に選任され、5月1日付で本部承認により山梨支部長に就任いたしました。日本山岳会は来年の令和7年には創立120周年を迎え、記念行事も多く予定されています。支部では3つの山岳祭、深田祭・田部祭・木暮祭と山岳古道、金峰山御嶽道・南アルプス北部山岳古道・富士山吉田口登山道の調査を担当しておりますので、これらを十分に成し遂げ報告する必要があります。



また、山の日制定記念事業として始めた「やまなし登山基礎講座」も本年10回目を迎えますので、総仕上げのつもりで成功させたいと思います。またこの講座の卒業生の多くが入会して、現在活発な山岳活動を開始しています。各人が確固たる志向のもと様々な分野へ出掛け活躍しております。これらの期待を裏切ることなく、支部員全員が力を合わせ、情報を共有し、協力・支援しあいながら、より良き支部を作り上げていきたいと思います。そのためには先輩会員は自分の得意分野を生かしながら、支部活動を活性化し、後輩を育て上げ、次代を担う人材により新しい支部を作っていく覚悟が必要だと考えます。

山岳遭難防止と安全登山のための登山リテラシーを高めていくとともに、山岳人の手本となるような山梨支部を目指していきたいと思料しております。（古屋寿隆）

2024 第10回やまなし登山基礎講座の概要

やまなし登山基礎講座は、節目の10回目を迎える。初級者や基礎知識・技術を学び直したい中級者を対象に、下記の内容で実施する。運営補助など、会員の積極的な協力を。内容は別紙チラシをご参照いただきたい。（矢崎茂男）

日本山岳会創立120周年記念事業

日本山岳会は明治38年（1905年）にイギリス人宣教師ウォオルター・ウエストンの勧めで創立された日本で初の山岳会で、来年2025年は創立120周年を迎える記念の年である。創立120周年を記念して9つの事業が立ち上げられて、その詳細についてはJACのホームページに掲載されている。また事業の進捗状況は逐次会報『山』にも掲載されている。

山梨支部に直接関係のある事業は9つの事業の内、「全国山岳古道調査」（歴史の道、文化の道、失われた道を踏査する）および「引き継がれる山岳祭」（全国で行われている山岳祭を絶やさず将来に繋げるプロジェクト）である。

「全国山岳古道調査」は全ての支部や会員に関係のある事業で、120周年に合わせて全国の120ほどの山岳古道（観光化されて賑わっている古道を除く）が調査対象になっている。山梨支部の調査対象古道は「金峰山御嶽道」「南アルプス北部山岳古道」「新倉～転付峠～二軒小屋」「富士山吉田口登山道」である。このうち、「南アルプス北部山岳古道」は複数の調査対象候補ルートがあるものの、調査に積雪の季節的要因の他、ルート上に崩落箇所があって危険度が極めて高いものや完全に廃道となってしまう、分け入り調査自体が不可能なものもあり、進捗状況は遅延している。今年度中に調査完了を目指している。

次に「引き継がれる山岳祭」は山梨支部が関係する山岳祭3つ（開催順に深田祭、田部祭、木暮祭）あり、2023年度は本部と関係支部とのオンライン協議を経てリーフレット『引き継ごう山岳祭（2024年版）』を作成した。2024年度は日本山岳会が関わる全国13の山岳祭の冊子を作ることになっていて、前記3つの山岳祭の冊子編集作業を支部が担当する。

なお、日本山岳会創立120周年記念式典は2025年12月6日（土）の年次晚餐会に併せて行われる予定となっている。（北原孝浩）

山行報告

【雪山ステップアップ講習（3）】

■山行日：令和6年3月16日（土）・17日（日） ■地図：2万5千図「八ヶ岳西部」

■行程：16日 茅野駅東口—送迎にて桜平—夏沢鉱泉—根石山荘—根石岳・東天狗岳ピストン—根石山荘（泊）

17日 根石山荘—夏沢峠—硫黄岳—夏沢峠—オーレン小屋—夏沢鉱泉—茅野駅

■参加者：小宮山千彰、石澤貴子、杉山建一、福田千絵、堤幸司、平田美穂子、清水真理

今まで雪山は初心者向けのコースしか経験がなく、東天狗岳と硫黄岳は私にとって言葉通りステップアップの山だった。去年の同じ講習会では、風が強くて大変だったと聞いていたので、しっかりと防寒対策を行い挑んだ初日は、まさかの晴天で風はどこにもない。夏沢峠へ向かう登りは暑すぎて、3月の雪山なのに腕まくりをしても汗が出てくるほどだった。

根石山荘についてから、東天狗岳へ。去年は爆風で登ることが出来なかったと聞いていたが、あっさりと登頂。空には雲一つなく東天狗岳からの景色は絶景で、翌日もこの天気だったら硫黄岳にも登頂できるぞとワクワクする。

しかし、絶好調だったのもここまで。夕方からは徐々に風が強くなり、根石山荘に吹きつける強風が嵐の様な音を立てて襲い掛かる。トタン屋根を叩く風は朝まで収まることなく、寝たのか寝てないのか分からないまま起きた。

山荘を発ってから風は一向に弱まる気配がなく、先に硫黄岳を目指して進んでいた登山者が引き返してくる。それでも、行けるところまで登ってみようと思った。

実は、この時までピッケルの凄さを理解していなかった。ストックに比べて、1本のみで長さも変えられない。さらに重いし、持ちにくいと思っていたけど、もうピッケルがないと進めない。実際に強風を経験してみて初めてピッケルがどれだけ実用的で機能的な道具なのかを理解した。

硫黄岳に向かう登りは、多分私が一番手こずっていた。何度も強い風に心が挫けたが、仲間の励ましのお陰で、実力以上の力が出たと思う。最終的には硫黄岳は途中まで登り撤退。心残りもあるけれど、2日間たくさんの経験ができて、とても楽しく勉強になった山行だった。（清水真理）



【三方分山・パノラマ台】

■山行日：令和6年3月31日（日） ■地図：2万5千図「精進」「市川大門」

■行程：県営精進湖駐車場（他手合浜）—精進湖バス停—女坂峠—三方分山—精進峠—根子峠—パノラマ台—県営精進湖駐車場

■参加者：渡辺峯雄、相川修、北原孝治、大澤純二、大澤さな枝、小嶋数文、高橋みゆき、石澤貴子、渡辺秀子、渡辺和美

桜の開花を遅らすほどの寒の戻りが過ぎ、今朝は少し暖かいが、黄砂予報もあり富士山が少し霞んで見える。7時30分に精進湖他手合浜駐車場に集合。山頂からの富士山の姿を期待しながら、経験豊富なベテランの方や集合時間前に一座の登山をしてきたというバイタリティあふれる方、初心者級の私を含め10人で山行を開始した。



精進湖北方にそびえる三方分山からパノラマ台までを縦走し、甲斐と駿河を結んでいた古の街道である中道往還を進んでいくという行程。まず、天然記念物の大杉があり、神社や寺院が並んでいる精進諏訪神社に寄り道し、精進集落へ入る。昭和の生活感が残る廃墟を見ると、懐かしいという声も聞こえた。峠道の埋もれるような石仏や石積み跡など、往還の面影を感じながら緩い傾斜を登って行った。家康もこの道を歩いたのかな？ 馬に乗ってかな？ と歴史的なロマンを感じながら、阿難坂（女坂）峠分岐を左に進んだ。その後、急傾斜を

登ると三方分山山頂。八坂（身延町）、精進（富士河口湖町）、古関（甲府市）の三方を尾根で分けているのが特徴である。富士山の姿も絶景！ スタート地点の精進湖が一望でき、「子抱き富士」とも呼ばれる大室山と富士山の姿は雄大な中にも優しさを感じた。

精進山・精進峠・偉主山・根子峠と、左に富士山、右に南アルプスの山々を眺めながらの稜線歩きは、山の風が爽快で実に気持ち良かった。登山道の両わきには馬酔木の花が咲きはじめ、中には満開の木もあった。かつて登った山の話に花が咲き、終始穏やかで楽しい山歩きをした。パノラマ台を目前にした時、ふと振り返ると三方分山から縦走してきた山並が一望できた。この長い行程を歩いてきた参加者一同は、自分のがんばりを密かに褒めたことだろう。

パノラマ台で昼食をとった。精進湖・本栖湖・西湖や河口湖が見え、富士山と青木ヶ原樹海が一望できる景色に感動した。一日中私たちを見守ってくれた富士山に感謝して山行を終えた。

（渡辺和美）

【蜂城山・神領山・大久保山】

■山行日：令和6年4月6日（土） ■地図：2万5千図「石和」

■行程：みさか桃源郷公園—蜂城山登山口—蜂城山—神領山—大久保山—那賀都神社—蜂城山登山口

■参加者：磯野澄也、北原孝浩、中村光吉、大澤純二、大澤さな枝、小嶋数文、鶴田陽子、鶴田輝世、山本かおる、臼田昌美

一宮町の馬蹄形に連なる「神山三山」へ。桃花の開花に合わせて若緑立つ新緑の中、春山周回を楽しんだ。

桃畑の登山口・天神社参道には、夏祭りに一晩中篝火が灯されたという石灯籠が置かれる八十八曲りの急坂があって、少し汗する。コナラ樹林の途中にあった、幹囲1.5mのヤマボウシの大木は枯死して看板跡のみ。赤松、檀香梅、山桜が彩る中、南アルプスを展望する鳥居の先が1座目の蜂城山(738m)。岩崎氏の山城だった跡に、菅原道真公を祭神とし、書道展も行う蜂城天神社が建てられた。狼似の尾も可愛い狛犬が護る本殿は、台風被害から修復されて元に戻り、素晴らしい木彫（道真公の梅に鶯・龍・雲）を間近に拝観することが叶うようになった。

この山城土塁跡の横から赤松の急坂を降り、茶臼山分岐を過ぎると、冷涼な檜林の登り坂に入る。枝を広げた赤松の大木、可憐な豆桜を眺め広葉樹林の分岐に着く。この先、倒木アスレチック（笑）を楽しみ、2座目の神領山(866m)。恩賜林石柱だけの質素で狭い山頂が、今日の最高峰である。

分岐に戻り、広めの西尾根を下るコナラ林は、カエデ、ガマズミの若葉が目優しく映る。足元は倒木多く、ウロコ茸が木に鱗の如くびっしり着く「倒木アート」の世界。ひときわピンク目印が目立つ山宮神宮分岐を、左に進むと、3座目の大久保山(664m)。その先、那賀都神社（祭神は牛頭天王）の御神木の赤松は、根廻4.6mの大きく手を広げた銘木だったが、これも枯死し、今はその根元に幼芽が顔を出している。ここで、昼食と春の野点。梅、桜、菜の花の和菓子とお抹茶で、春を味わいつつ、和みの一時を過ごした。



食後、北尾根の先端まで下って大文字焼点火場。ここは最高の展望

台である。青空の山座同定をしつつ、今夏の山々への期待が膨らむ。眼下には、日本一の桃畑「ピンクの桃源郷」が広がる。

ゲート先、ヒナスミレ咲く道を降りて、桃畑の中を歩き山宮大明神の鳥居の前に出る。甲斐国一宮浅間神社の創祀の地で、今日歩いた三山が全てこの神域であり「神山三山」と呼ばれる事を思い出し、道中の無事を感謝して、手を合わせた。（臼田昌美）

【茅ヶ岳と深田祭】

■山行日：令和6年4月21日（日） ■地図：2万5千図「若神子」「茅ヶ岳」

■行程：深田記念公園—女岩—稜線—茅ヶ岳—防火帯道—深田記念公園・深田祭へ参加

■参加者：磯野澄也、古屋寿隆、北原孝浩、萩野有基子、大澤純二、大澤さな枝、臼田昌美、黒沼英美、石澤貴子、相川修、手崎喜美子、坂井広志

茅ヶ岳は、岳人ならば誰もが知る『日本百名山』の著者で登山家の深田久弥氏が、昭和46年（1971年）3月21日に登山中に脳卒中で他界されたことで知られる山だ。以来、氏の遺徳・功績を偲び、山麓で深田祭が開催されてきた。日本山岳会で定めた全国の13の山岳祭の一つであり、今回も本部の「引き継がれる山岳祭」プロジェクトリーダーである坂井広志氏にご参加いただいた。山梨支部で

もその歴史・山岳文化を知るため会員に対し最優先するよう通知し、今回は11名の会員が参加した。

深田記念公園に8時に集合し、ノーマルルートから茅ヶ岳を目指す。各自自由に登る記念登山、白鳳会主催の山頂トレッキング、中学生になった伴野嶺さんを囲むグループ等、今日の茅ヶ岳はいつにも増して賑わっている。登山道沿いには、春の花タチツボスミレ、イカリソウ、ニリンソウ、マルバスミレ等が出迎えてくれる。

女岩からは急登になりジグザクに登りきると、深田久弥先生終焉の碑が尾根上に佇む。手を合せたのち、暫く登ると山頂に着く。本来なら大パノラマが見渡せる場所であるが、曇天の中、うっすらと八ヶ岳・南アルプス・奥秩父の峰々が迎えてくれた。山頂は大勢の登山客で賑わい、あちこちで楽しい会話が弾んでいる。45分の滞在後、山頂を後にした。途中の多数のヤドリギ、色鮮やかなミツバツツジが目を引き。深田記念公園での祭の開始に間に合うよう急ぎ足で下山した。



13時半、第43回深田祭に全員で参加した。内藤葦崎市長、坂井プロジェクトリーダーの挨拶に続き、深田氏生誕地の石川県から参加された「深田久弥と山の文化を愛する会」の代表者が献花した。一般参加者も多く、今年も深田祭は盛大に挙行された。「百の頂きに百の喜びあり 深田久弥」の記念碑に、初めて参加した会員も感銘を受けたと思われる。(磯野澄也)

【霧訪山（きりとうやま）】

■山行日：令和6年4月27日（土） ■地図：2万5千図：「北小野」

■行程：敷島総合文化会館—双葉スマートIC—塩尻IC—山ノ神自然園—たまらずの池—霧訪山登山口—霧訪山—大芝山—洞ノ峰—山ノ神自然園—塩尻IC—敷島総合文化館

■参加者：萩野重行、岩間明子、村田幸子、鶴田陽子、渡辺和子、平松清子

当初、南高尾のニリンソウの群生地を訪れる計画だったが、花がほぼ終わっているため、皆さんにお話をして霧訪山に変更した。

お花の山で知られている霧訪山は、駐車場からニリンソウやヒカゲスミレ、山葵の花等が咲いていた。たまらずの池では、カスミザクラがまだ咲き残っていて出迎えをしてくれた。

標高を上げて行く度に、イワウチワやマキノスミレ、斑入りシハイスミレ、クロモジの花、カタクリの花が咲いていて、「ここにもこっちにも咲いている」「これは綺麗だね」などと、お花を見ながらいろんな会話が飛び交っていた。山頂ではオキナグサも芽を出していて、春がここまで登ってきたことを伝えていた。

ゆっくりのんびり自然に触れながら植物観察をし、みんなでおしゃべりを楽しみながら歩いた山行だった。(平松清子)



【第7回田部祭と西沢溪谷】

■山行日：令和6年4月29日（月・祝日） ■地図：2万5千図「金峰山」

■行程：道の駅みとみ西沢溪谷入口広場—田部重治文学碑—二股吊り橋（東沢大橋）—西沢遊歩道—滝見橋—トロッコ軌道跡林道—ネトリ大橋—道の駅みとみ

■参加者：小宮山千彰、相川修、北原孝浩、渡辺峯雄、大澤純二、矢崎茂男、小嶋数文、坂井広志、遠山若枝、大澤さな枝、萩野有基子、臼田晶美、山本かおる、松村明子、渡辺秀子

新緑まばゆい「昭和の日」、第7回田部祭が山梨県山梨市三富で開催された。昨年からの田部祭は、西沢溪谷山開き・山岳指導所開所式と同じ4月29日に行うことになり、今年は更にこれら3つを併せて行うことになった。

西沢溪谷入口広場で執り行われた式典には大勢の登山者が参列した。山梨市観光協会三富支部の両宮支部長から、今年も田部重治への敬意を込めたあいさつがあった。山開きの式典では、地元・大嶽山那賀都神社の日原宮司による神事が執り行われた。祝詞で、今シーズンの登山者の安全を祈願するとともに、田部の作品の一節が紹介され、今日の笛吹川源流域の隆盛の礎を築いた田部の功績が奏上された。最後に、登山道に張られた蔓に斧が振るわれる入剣の儀が行われて式典は終了。登山者が続々と、西沢・東沢に向かっていった。

山梨支部の参加者は、一足遅れて出発した。田部重治文学碑に着いて荷を下ろし、例年同様、献花を行い記念写真を撮った。第1回から続いている、ここでの儀礼を絶やすわけにはいかない。支部に

とって田部重治は、顕彰・研究の対象として特別の意味を持つ大先輩だからである。

碑前を登って二股吊り橋を渡ると、沢岸にキバナシャクナゲが風に揺れていた。滝見台に立ち寄り、三重の滝の豪壮な流下を見下ろした。田部らの大正6年第3回東沢遡行は、当初、支流の西沢に分け入ることを目指して入溪したのだが、この三重の滝の水量と左右岩壁の険悪さを目の当たりにして、遡行を断念。東沢を三たび遡ることにした結果、東沢の完全遡行に成功した。この滝は、登山史の上で重要な意味を持つのである。



岩に張り付いて淡い光沢を放っている草花や、沢の釜にあふれる透徹な水、釜の側壁をうがった甌穴など、学習教材は事欠かない。12時に沢岸に腰を下ろして昼食。薫風が沢を吹き抜けていく。私たちの他にも、西沢の歌声を聞きながら大勢が昼時の憩いの時間を過ごしていた。遡行を再開して15分後、立派に改修された滝見橋に着いた。豪雨によって損壊したこの橋が改修され、西沢の圧巻「七つ釜五段の滝」の全容を3年ぶりに堪能することができるようになった。当局の尽力に感謝したい。

滝見橋を過ぎて、トロッコ軌道跡林道に登り上げた。アズマシャクナゲの群生地として名の通っている一帯であるが、今年は彩りが寂しいと嘆息が漏れた。ネトリ大橋を渡り、一日の収穫を語り合いながら山行は終了。田部祭・西沢溪谷記念ハイキングとともに、今年も充実した「昭和の日」になったことを報告する。(矢崎茂男)

【富士山5合目(須走登山道)周辺】

■山行日：令和6年5月5日(日) ■地図：2万5千図「富士山」「須走」

■行程：御坂保健・福祉センター駐車場—富士山須走口5合目駐車場—小富士—東富士山荘—幻の滝登山口—散策—須走口5合目—道の駅すばしり—御坂保健・福祉センター

■参加者：平松清子、古屋寿隆、中村光吉、末木佐登子、保坂美佐子、遠藤辰也、上田謙治、渡辺和子、大澤純二、大澤さな枝、鶴田惇、鶴田真那、村田幸子

「GWにどこか登りたいけど、どこにしよう?」と思いあぐねていたところ、大澤夫妻から今回の山行を教えていただいた。支部の山行へは初参加だったが、平松さんを中心に穏やかで暖かい雰囲気、肩肘張らずにチームに入れていただくことができた。

メインの「幻の滝」は昼食後の楽しみにとっておき、まずは小富士へ向かった。シラビソの倒木からの甘い香りや犬の形をした岩などを楽しみながら苔むした道を進むと、一気に視界が開け絶景が広がった。小富士の頂上は人が少なく、人目を気にせずしばしの自由時間。地面に横になって地熱を感じくつろいだり、富士山をバックにジャンプしている写真を撮ったりと、山の玄人ならではの楽しみ方を伝授していただいた。東富士山荘へは同じ道を引き返すコースだったが、平松さんがタケシマランやマイヅルソウを見つけては教授してくれ、往路では気づかなかった春の訪れを感じることもできた。

東富士山荘で、早目のお昼。キノコソバやキノコ鍋、キノコチャーハンなどキノコ料理が並ぶ中、私はシドケパスタを注文した。少し苦みを感じるも、その苦みが心地よく美味だった。その後、いよいよ「幻の滝」へ向かった。溶岩の道をしばらく歩くと、水の流れが見えた。大喜びで写真を撮っていると、これはまだ序の口で、メインはここからだとのこと。登るにつれて、まさに雪解けさなかの場所もあり、迫力ある滝にも出会えた。ここでも、しばしの自由時間。くぼんだ溶岩に寝てみると、溶岩は硬いのに、絶妙なフィット感で気持ち良がよい。雪解け水でさぞかし冷たいのだろうと滝の水へ手を入れてみたが、さほどのことはなかったのは不思議だった。

帰途、「道の駅すばしり」にて、土産にメロンの浅漬を購入し富士山ソフトを食べた。これも含めて大満足の山行だった。今後も機会をみつけて参加したい。(鶴田惇)

【蝶ヶ岳】

■山行日：令和6年5月5日(日)・6日(月) ■地図：昭文社5万図「檜ヶ岳・穂高岳」

■行程：5日 上高地河童橋—徳澤園—長堀山—蝶ヶ岳—蝶ヶ岳ヒュッテ(泊)

6日 蝶ヶ岳ヒュッテ—横尾山荘—徳澤園—上高地河童橋

■参加者：小宮山千彰、相川 修、窪田光一、高橋みゆき、飯島典子、日向直子、福田千絵、曾我結希

「ゴールデンウィークの雪山に登りライチョウと出会い、槍・穂高の大パノラマを堪能する」といううたい文句に釣られて参加した。10本爪以上のアイゼン、ピッケルが必要という雪山にやや不安な気持ちがあったが、当日は快晴。中央高速道からは北アルプスが眺望でき、期待を胸に上高地へ向かった。小梨平で、テント泊していた東京からのメンバーと合流した。

スタート直後から可憐なニリンソウの群生が白い絨毯のようにみえて、徳沢園までは快調に足も動いた。徳沢を過ぎると急登になって、樹林帯の中を黙々と登った。積雪が増えてチェーンアイゼンを装着し、長堀尾根という名前の通りの長い急登を頻繁に休憩しながら慎重に歩を進めた。

どうにか長堀山山頂に到着。雪に埋もれた妖精の池を過ぎると素晴らしい眺望が開けた。うたい文句の通りの槍・穂高の大パノラマである。雪をかぶった槍・穂高連峰の凜とした姿を思う存分堪能すると、今までの苦労が報われた気分。その光景を臉に焼き付け山頂経由で蝶ヶ岳ヒュッテに到着した。

早速、穂高に映える夕焼けを見ながらビールで乾杯、登山の疲れを癒した。ヒュッテの夕食は、山荘とは思えないメニューで、赤味噌づくりのお汁もとても美味しかった。また、メンバーの知り合いの小屋スタッフから地元ワインの差し入れがあり、誕生日を迎えるSさんを賑やかにお祝いできた。

翌朝は、生憎の曇天模様。強風で小雨も降る中ヒュッテを出発し、常念岳の稜線を眺めながらしばらく歩くうちに雨もあがった。すると目の前にライチョウのつがいが見えた。恐れる風もなく何かを啄んでいる様子は、愛らしく時間を忘れた。しばらく行くと、また別のつがいのライチョウが見えた。彼らに見送られながら横尾へ。途中、槍見台で槍ヶ岳を眺めて一服。その後横尾山荘を抜け、徳沢園へ。そこで昼食・ソフトクリームを美味しくいただき、定刻通り無事に河童橋についた。

バスターミナルで東京組と別れて帰途についた。元気な女性陣などメンバーに恵まれ、内容盛沢山の思い出に残る山行であった。（窪田光一）



【クライミング講習会（1）】

■山行日：令和6年5月12日（日） ■地図：2万5千図「河口湖東部」

■場 所：三ツ峠天狗岩・屏風岩

■参加者：古屋寿隆、石澤貴子、近藤美奈子、石ヶ谷侑希、清水純也

午前：天狗岩 ○エイトノット・懸垂下降。今回初めてクライミングを体験する方が、初っ端から懸垂下降で降りる。登るより降りるほうが先。きゃー。出だしが怖いのである。わかる、わかる。最後に、古屋さんの番。子どものような無邪気な笑顔で降りてくる。後ろ姿はまるで40代！

○登り・トップロープでのビレイ。毎回、お互いに確認し合ってから登り始めること、慣れは禁物。よく足場を見て。足を一歩上げれば新しい世界が見えてくる。ロープがたるまないように、ビレイヤーの速度に合わせて登る。速く登ることがかっこいい訳ではない。



あっという間にお昼ご飯の時間に。三ツ峠山荘で、おいしいかき揚げうどんをいただいた。今日は肌寒く、温かいスープがお腹に染み渡わたる。

午後：屏風岩 ○中央カンテルート1ピッチ目、トップで登る。いつか上まで行ってみたい。登りとビレイを練習し、3時終了。三ツ峠山荘中村さんの息子さんが温かいコーヒーを淹れてくださった。ありがたさが身に沁みた。

昨年10月の終わりに、ここで山梨岳連のクライミング研修会があり、それから8か月。季節は秋冬春を通り過ぎ、夏が始まろうとしている。また来よう。中央カンテの上まで登ってみよう。足を一歩上げれば新しい世界が見えてくる。（近藤美奈子）

【クライミング講習会（2）】

■山行日：令和6年5月18日（土）・19日（日） ■地図：2万5千図「金峰山」

■場 所：小川山クライミング場～廻り目平キャンプ場

■参加者：古屋寿隆、手崎喜美子、近藤美奈子、中田雅弘、荻原賢治、黒沼英美、相川修、高橋みゆき、大神耕介

今回のクライミング講習は、クライマーの聖地といわれる信州川上村の小川山で行われた。これまで三ツ峠や、小瀬スポーツ公園のクライミング場で学んできたクライミング技術を発揮したい、宿泊して親睦を深めたい、という趣旨である。参加者の経験値やレベルに差がある中、たくさんのルート

がありキャンプ場もある小川山は、最適の講習場所であった。

1日目のスラブ状岩壁ガマルートでの充実した講習を終えて、2名は日帰りで帰路につき、夕方までに新たに4名がキャンプ場にて合流した。たくさんのキャンパーが集っている。私たちが焚火しながら、持ち寄った夕餉と山談議で夜は尽きることがない。コロナ禍で自粛続きだったが、ようやく仲間たちと山を楽しむ日常が戻ってきていることに、幸せを感じた。



2日目は、初心者向きのガマスラブにてトップロープ講習と確保の練習。その名の通りガマガエルの背中のようなスラブを登攀する。広大な傾斜で足をきちんと置かないとずるずると滑り落ちる。この上部に5ピッチのガマルートがあるのだが、降雨もあり今回は中止となった。

改めて、クライミングは楽しい！と実感。技術を高めて、また外岩で実践登攀したいと思うのでよろしくお祈りします。ありがとうございました。（高橋みゆき）

【登山・ハイキングのためのロープワークとレスキュー技術講習会】

■山行日：令和6年6月1日（土） ■地図：2万5千図「甲府北部」

■場 所：緑が丘スポーツ公園上の広場

■参加者：古屋寿隆、上田謙治、相川修、河野芳尚、荻原賢治、平松清子、遠藤辰也、黒沼英美、手崎喜美子、中田雅弘、小池雄一郎、宮澤千穂、渡辺由紀子、大神耕介、石川千嘉

3年前に、アイスクライミングがしたい！ロープワークを覚えたいので教えてほしい！と山梨支部に入会したが、当時の私は8の字結びがかるうじてできるかくらいの知識しかなかった。クローブ・ヒッチは「徳利結び」と教えていただいた。そのクローブ・ヒッチは、お菓子のハートパイを作って素直に重ねる！今回は3回目の参加。スリングを使っての簡易ハーネスの作り方、スリング・ザック・レインウェア・ストック等を使っての背負い搬送、ストックで松葉杖を作る、ツェルトとカラビナ・スリングを使っての搬送、ツェルトの張り方2種、1：1、2：1、3：1引き上げシステム。

今年のアイスクライミングでロープをアイゼンで蹴り込んでしまい、切れそうな部分をバタフライ・ノットで防いだ。私のミスでビレイデバイスを落としてしまった時は、ムンター・ヒッチでセカンドを引き上げた。リードする人をセカンドで確保するときは、必ずメインロープでセルフビレイをクローブ・ヒッチで取る、なぜならセカンドが落ちた時、自分の体が引き込まれないために。



3年間の実践を通してロープ技術を教えていただいている。ありがたい環境だと思う。ただ、レスキュー面では不安がかなりある。昨年からはハイキングの時でも補助ロープやカラビナ・スリング等背負っているが、自分が果たして緊急事態に陥った時に適切な行動ができるのか心配だ。普段使わないストックも持ち歩いている。年に一度ではなく頻度を上げて開催したい。もっといろいろな講習会にも参加したいと思う。（手崎喜美子）

理事会報告

- 4月20日 定時総会議案、役員改選案の承認、公募登山・支部山行の実施計画、他。総会後の臨時理事会にて役員組織を議決
- 5月 8日 第10回「やまなし登山基礎講座」の内容等確認、「支部通信」3期16号の編集、第5回「子どもと登山」実施計画、古道調査の推進、他
- 6月12日 新入支部員等対象登山届説明会・意見交換会、「子どもと登山」計画・募集等、第65回「木暮祭」、他

編集 矢崎茂男（広報委員）

住所：408-0114 山梨県北杜市須玉町藤田 502 TEL：090-7734-2788

Eメール：yazaki-s@taupe.plala.or.jp